

祝

鹿児島黒牛 総合優勝

第11回全国和牛能力共進会が9月7日～11日に宮城県仙台市で開催されました。全国和牛能力共進会は5年に一度開催され、和牛のオリンピックとも呼ばれています。今回は初めての政令指定都市での開催で、5日間で約41万人が来場（主催者発表）しました。



先日行われた「第11回全国和牛能力共進会」には、全国から過去最多の513頭が出品され、鹿児島県からは予選562頭の中から、選抜された30頭が出品。9部門中4部門で1位を受賞、出品したすべての牛が上位6席以内に入賞し、栄えある総合優勝（団体賞）を勝ち取りました。

曾於市からは、末吉町・森岡徳幸さん所有のほうび号が第3区（若雌の2）に出品され、優等賞5席（32頭中5位）という素晴らしい成績を残されました。

出品牛は、9月3日に鹿児島を出発し、5日朝に会場である仙台に到着。片道1、700kmという長旅に備えるため、出発前から糖蜜や乳酸菌を給与し、牛をリラックスさせた状態で輸送しました。この効果が発揮され、通常の輸送では40kg程度体重が減るといわれている中、体重の減少はわずか2kgにおさまり、さらに疲労からの回復がとてはやく、万全の状態に臨むことが出来ました。

5年後には第12回大会が霧島市で開催されることが決まっており、次回大会に向け新たな一歩を踏み出しました。



出発前の様子
ここから3日かけて仙台へ向かう



仙台にて手入のためほうび号を洗うチーム鹿児島の皆さん



審査会場に向かう森岡徳幸さんとほうび号



ゆたん
牛油単（相撲でいう化粧回しのようなもの）を身に着けるほうび号



大隅町にある県肉用牛改良研究所は第1区で優等賞1席を受賞



チーム鹿児島の皆さん。
本当にお疲れ様でした。

大会の結果詳細や舞台裏は鹿児島県のホームページに掲載しています



鹿児島県特設 HP
<https://goo.gl/PHp6eu>

出品者・森岡徳幸さんへのインタビュー

― 出品までに苦労したことは？

栄養管理に特に気を配りました。代表として決定してから、大会までは1カ月以上の時間がありました。足腰をしつかりさせるため、太りすぎや痩せすぎにならないよう毎日運動をさせるのですが、運動時間の調整にとては気を遣いました。

― 全共を終えての感想を聞かせてください。

今回で4回目（平成9年岩手、平成19年鳥取、平成24年長崎）の挑戦でした。激戦区と言われる鹿児島から出品できましたが、やはり全国で上位に入るのは簡単ではないと感じました。「チーム鹿児島」として団結していくことが大切だと強く思いました。

― 次回、第12回全共に向けて一言お願いします。

出品するにあたり、地域の仲間や家族に大変お世話になりました。周りの協力がなければ取り組むことはできないと改めて感じました。次回大会も、「挑戦者」として取り組みたいです。

